

新潟県長岡地域振興局長賞

『知らないところで支えられていた私』

柏崎市立瑞穂中学校 三年 徳永 希和

私は陸上部に所属しています。

夏休みに、税についての作文を書く課題が出ましたが、税金なんて自分には関係がないと思っていたので、後回しにし、その間陸上競技場に練習に行っていました。

練習中、ふと競技場内にある看板に目がとまりました。「この競技場は、電源立地地域対策交付金事業で整備されました。」何だろうこれは。気になったので調べてみると、これは原子力発電所が立地している場所に交付されるお金で、その原資となるのは「電源開発促進税」という税金の一種だということが分かりました。これも税金の仲間なのか！と少し興味が出てきたので、顧問の先生にも聞いてみました。「もしかしてこの競技場の管理にも税金は使われているのですか？」先生は「様々な部分で税金が使われているよ。」と教えてくれました。初めて知ってとても驚きました。今まで自分には関係ないと思っていた税金に、一気に興味がわいた瞬間でした。

振り返ると、春先にこんなことがありました。私の種目は短距離で、競技場で走るにはホームコースとバックコースの二種類があり、風向きとして、バックコースの方がタイムを狙いやすいです。

しかし、バックコースを計測するカメラが壊れてしまい、修理できなければ、ホームコースで走ることになってしまいます。県大会出場を目指していた私にとって、どのコースを使うかは重要な問題でした。

しかし数日後、カメラは無事に修理され、大会にも間に合い、私も県大会出場の夢を叶えることができました。

「あの修理にも税金が関わっていたのか」と気づき、同時に感謝の気持ちがわいてきました。

また、練習をしているとケガをすることもあり、病院に行きますが、支払うお金はいつも五百三十円だけです。柏崎には医療費助成制度というものがあり、十八歳以下は一回五百三十円で治療を受けることができるそうです。薬も湿布もいつも無料でもらっていましたが、それが当たり前でないことを知り、税金のありがたさに改めて気づきました。自分には関係ないと思っていた税金が自分の身近にあって、知らないところで助けられていたことに気づかされました。知らないだけで、日常生活の中で他にも多くの場面で支えられているのでしょう。

今の私はまだ税金を納める立場ではなく、せいぜいお菓子を買った時の消費税くらいしか思い浮かびません。でもその数円が誰かの役に立っていると考えると嬉しくなります。

そして、将来働いて多くの税金を納める立場になった時も、「これはきっと誰かの夢や健康を支えるための一部なんだ」と思いながら、誇りを持って納税したいと思いました。